

インターフェイスの使い易さを追求したオーディオ

Interactive Audio for the Aged

AD22 佐野 隆純
指導教員 杉島 一男
竹内 明

1. 研究目的

最近団塊の世代の人々が定年退職をし、日々の日常を自分の趣味やくつろぎの時間に当てることができるようになった。その中には趣味で音楽を楽しむ人や、空間や雰囲気を演出するために音楽を流す人達がいる。最近のオーディオに付属されているリモコンは、私でもわかりづらいもので、この世代の人々にとってはあまり適切なものではないと感じ、この改善に取り組むことにした。

2. 調査と分析

アンケート、観察、体験を通して。

①ボタン操作

(コンポ) 操作ボタン数が少なく基本操作は比較的扱いやすい物である。しかし、応用操作の場合1つのボタンに複数の機能が集約され、何度も同じボタンをクリックし、複数の手順を踏むなど操作が複雑化していく。

(リモコン) 規則的に多くのボタンが配置されていて、その分、多くの機能を操作できる。しかし、その規則的に統一された多くのボタンが逆に高齢者にとって使いづらいものである。

②画面操作

高齢者が実際に iPod Touch を使っているところを観察した。何度も画面をタッチし入力確認をしたり、操作反応を待ったりすることなどから、タッチパネルには触れた感覚や確認音などの操作感覚が足りないことがわかった。

③画面表示

コンボなどの表示部分は、電子表示から液晶画面に切り替わってきた。自由度が増した液晶画面では情報が増えたり、装飾性が優先され逆に見づらい文字(サイズや太さ、配色)となり、操作に支障をきたしていた。

3. コンセプトの立案

「高齢者にとってもわかりやすいリモコン」

- ・ボタンの押しやすさ
- ・確実な操作感
- ・適切な文字サイズと配色

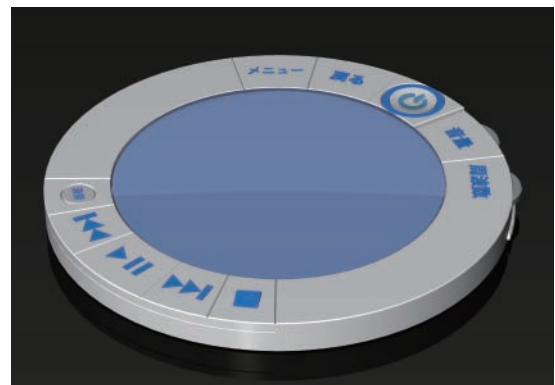
4. デザイン展開

今回、私が提案するリモコンの操作部分はボタン

式の部分とタッチパネルの液晶部分の2つから成るものとした。リモコン操作部分とコンポ操作部分の中から基本操作、応用操作を分類し、使用頻度も含めてボタン操作と画面操作に振り分けた。普段一番使用するボタンに操作感を持たせ、細かな操作や階層の進行はデジタルの部分でまとめることにより、使いやすくなると考えた。

もう1つ高齢者にネックになるのが文字サイズと色の配色だと考えた。アンケート調査とインターネット上の高齢者を対象とした調査結果の資料から適切と思われる文字サイズ、配色を決定した。

5. 完成図



6. 結論

形状はとても好印象で、四角ではなく円形であることで安心感があり、部屋間の移動にも持ち運びやすいなどの意見を貰った。そして、3種類のボタン音の切り替えから、高めの音が押した時一番聞きやすいことがわかった。持って使うよりも置いて使うほうが使い易いという結果から、その場合は上から覗きこむのは辛く、角度調節ができるスタンドのようなものが必要になると思われた。これらの結果から、高齢者が使う場所での在り方、デジタル機器に対しての不安感を無くす等、まだまだ多くの改善要素が残っており、これからの完成目標が出来た。

7. 参考文献

誰のためのデザイン

ふくしチャンネル <http://www.fukushi.com/>

東芝松下ディスプレイテクノロジー